



「神隠し」  
水貴

突然母が逝きました。  
台所で倒れて、救急車でも病院でも蘇生しても還って来ません。  
その晩実家に戻ると、倒れた母が作っていたチャーハンが  
皆のために用意されているようでした。  
皆で泣きながら母の最期の食事を頂きました。  
本当に神隠しという言葉に尽きるほどの消えっぷりです。  
母は、実在したのでしょうか？  
私にはこの句に現すしか術がありません。  
誰もが通るかもしれませんが、この出来事を一緒に見つめて視て下さい。

2007年3月1日 水貴

走馬灯靈安室で母と逢う

母逝きてニート願望つゝのる秋

検案の紺の浴衣で母戻る

お母さんと五編唱えて白雨中

夕涼みドライアイスの母にある

みんみんや動かぬ母の髪洗う

母逝きて父呆けはじめ晩夏光

通夜の前母の冷たき汗を拭く

短夜や良い人のまゝ幕降ろす

亡き母の口元動く夜の秋

初めての化粧の母や朝曇

死化粧の愛しく母の昼寝かな

母葬る日の草花の切火かな

白昼の神隠しなり夏の足袋

短夜や眠剤父に母の通夜

羅や黒借りてきて母に添う

四日目の死化粧を足す残暑かな

身に沁むや熱くて白き骨拾う

祭壇の花畑して母眠る

夕焼けの通夜のバス来る震度四

雲の峰茄子紺衣の棺の母

朝顔の萎えていくかな母葬る

逝く母とすれ違うかな鈴虫音

口惜しいと伯母に叩かれ菊白し

二百十日遺骨で帰る母抱いて

百日紅送り火かなと昼下がりに

糠漬けを形見分けとし九月尽

手の中の小さき母はビール飲む



 **Tokyo Mnemosyne** 東京ムネモシュネ

Tokyo Mnemosyne **e-books**

<http://haikustock.com>

A4用紙に印刷して2つ折りにします。右端をホッチキス留めするとA5判の小句集に仕上がります。  
個人で楽しむ範囲でのダウンロード、印刷以外の無断転載・コピー・流用は一切禁止します。